

平成25年度病害虫発生予察注意報第1号

平成25年7月30日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

山間部等の常発地および一部の平坦部において、葉いもちの発生が多いほ場が散見されている。梅雨明け後も不安定な天候が続いており、今後、穂いもちの発生が懸念されるため、穂ばらみ期及び穂揃い期の防除を徹底する必要がある。

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 全域
- 3 発生量 やや多い

4 注意報発令の根拠

- (1) 7月27日現在、県全体の葉いもち発生ほ場率は、26.0%と平年並（平年：27.6%）である（表1）が、山間部等の常発地および一部の平坦部においては、上位葉に急性病斑が認められるほ場や、多発ほ場が散見されている。
- (2) 県内では長期効果持続型の育苗箱施用剤が広く使用されているが、薬効が切れる時期となっている。また、穂肥の施用により、葉色が濃くなり、いもち病の感受性が高まっている。
- (3) 梅雨明け後も不安定な天候が続いており、葉いもちの発生が多い地域や、山間地等の常発地では、穂いもちの発生に注意が必要である。

表1 定点巡回調査結果（7月19～27日調査）

地区	葉いもち発生ほ場率(%)	
	本年	平年
東部	27.0	34.3
中部	52.7	26.4
西部	9.5	21.6
県平均	26.0	27.6

5 防除上注意すべき事項

- (1) 主要品種であるコシヒカリ、ひとめぼれでは、穂ばらみ期～穂揃い期を迎えており、穂いもち防除時期となっている。穂いもちは、発生してからの防除が困難であるため、穂ばらみ期及び穂揃い期の2回、粉剤、水和剤などによる防除を徹底する。
- (2) 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、中生品種等の穂ばらみ期防除まで期間がある（1週間以上）ほ場で、葉いもちの発生が多い場合には、表2を参考に治療効果のある薬剤で追加防除を行う。

- (3) 上位葉における発病が多く、穂いもちの多発生が予想される場合は、傾穂期（穂揃い期の7～10日後）の防除を追加する。
- (4) 降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後約3時間経過すれば、降雨の影響は少ない。
- (5) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。特に中生品種などで粒剤を使用する場合は、止水期間7日間を厳守する。

表2 いもち病防除剤（地上散布）

用途など	薬 剤 名
予防剤	コラトップ粒剤5、コラトップ1キロ粒剤12 ビーム粉剤DL、ビームゾル ラブサイド粉剤DL、ラブサイドフロアブル など
治療剤	カスミン粉剤DL、カスミン液剤 など
予防・治療剤	ダブルカット粉剤3DL、ダブルカットフロアブル ノンブラス粉剤DL、ノンブラスフロアブル ブラシン粉剤DL、ブラシン水和剤、ブラシンフロアブル ラテラ粉剤DL など